

東通原子力発電所1号炉審査資料	
資料番号	A1-CA-0092(改1)
提出年月日	2021年7月29日

東通原子力発電所
「横浜断層による地震」の断層モデル設定の概要

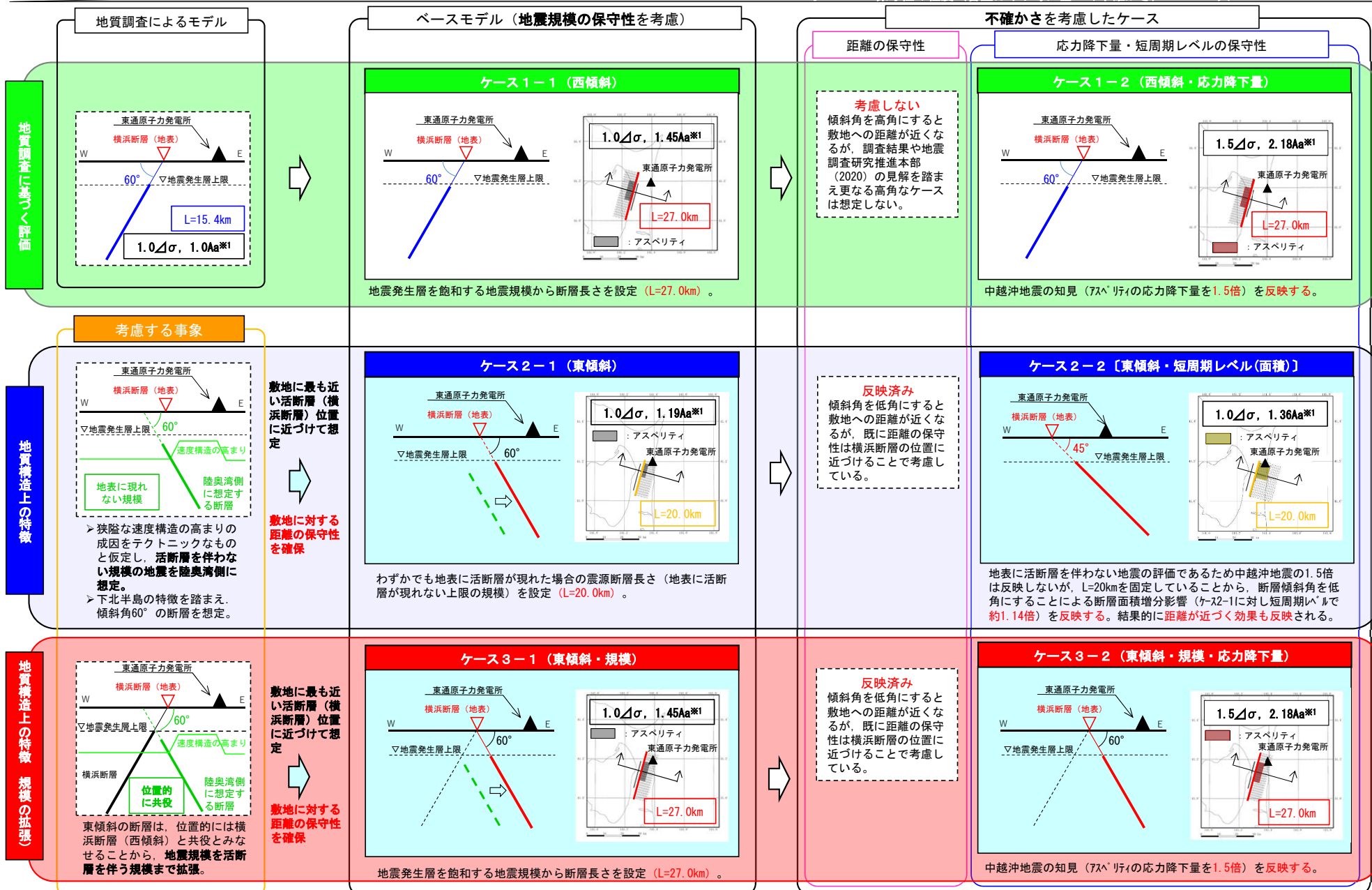
2021年7月29日
東北電力株式会社

「横浜断層による地震」の断層モデル設定の概要

横浜断層による地震の地震動評価に当たっては、以下を考慮することによって十分な保守性を確保する。

- ①地質調査結果から想定される西傾斜のモデル（ケース1）に加え、下北半島中軸部の狭隘な速度構造の高まりに対応して陸奥湾側に想定される東傾斜の断層を、横浜断層の位置に近づけて評価したタイプを不確かさとして考慮する。特に東傾斜については、活断層を伴わない規模の上限地震（ケース2）と、西傾斜と共役的な位置関係になることを重視し地震規模を活断層を伴う規模まで拡張した地震（ケース3）の2つのタイプを考慮する。
- ②加えて、考慮する3タイプそれぞれに対し、ガイド等によって要求される不確かさ（応力降下量等）を反映する。

小 → 保守性の程度（審査ガイド等に基づく不確かさ） → 大



凡例 □ : 近づけたケース

※1 : アスベリティの短周期レベル。地質調査モデルを基準（1.0倍）として表記。

小 ↓ 保守性の程度（考慮する地震タイプ） ↓ 大

地質構造上の特徴

地質構造上の特徴 規模の拡張